

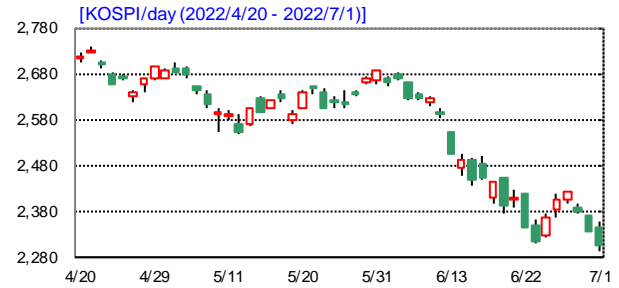


## 【韓国】 総合指数は週間で2.6%安と4週続落、今週も軟調か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.6%安と4週続落。週明け6月27-28日は続伸。米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の発言などを受けて景気後退への懸念が和らいだほか、中国が新型コロナの隔離措置の緩和を発表したことも好感された。ただ、翌29日以降は軟調に推移し、7月1日終値は20年11月初旬以来、約1年8カ月ぶり安値水準。場中に一時、心理的節目の2300ポイントを割る場面もあった。インフレの高進と金融引き締めによる景気減速懸念が再燃。6月の輸出は前年同月比5.4%増と市場予想（3.8%増）を上回ったものの、伸び率が20年11月以来、1年7カ月ぶりの低水準に落ち込んだことも嫌気された。今週も米国や韓国の金融政策をにらんで軟調に推移するか。国内では5日に物価統計が発表される予定。

▼指数チャート

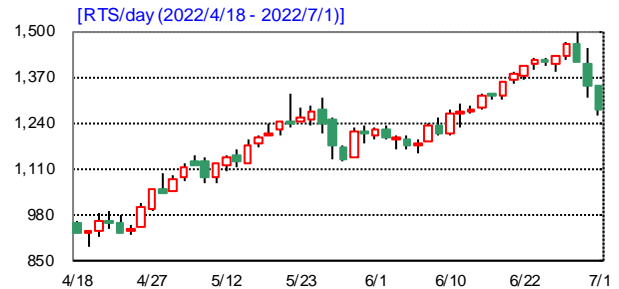


## 【ロシア】 RTS 指数は9.8%安と大幅に5週ぶり反落、今週は為替相場が焦点か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で9.8%安と大幅に5週ぶりに反落。配当を取りやめたガスプロムの株価暴落や資源株の下落、ルーブル安が重しとなった。指数は週初に続伸したが、6月29日から1日まで大幅に3日続落。エネルギー大手のガスプロムが法人税の増加に備えるため配当支払いを停止すると発表し、株価が暴落したほか、商品安を受けた資源株の下落も重しとなった。ルーブルが対米ドルで1.2%安となったことも米ドル建てのRTS指数を押し下げた。個別銘柄では、金融のTCSグループが13.8%高、エネルギーのスルフトネフテガスが11.6%高となった一方、ガスプロムが35.0%安と暴落し、産金のポリュスが10.3%安、資源のノリリスク・ニッケルが9.7%安となった。今週は原油やルーブル相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート

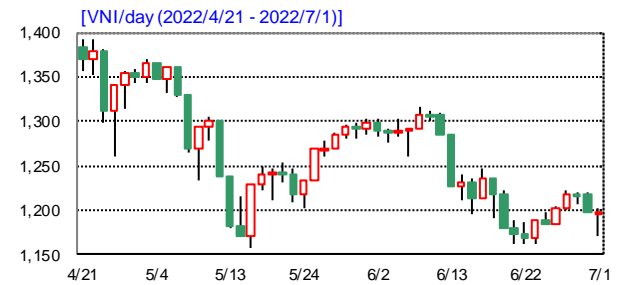


## 【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.1%高と4週ぶりに反発、今週は一進一退か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.1%高と4週ぶりに反発。前週まで3週続落したことで押し目買いが優勢となった。週明け6月27日は前週末比1.5%の大幅高となると、28日は1.3%高と続伸。29日はほぼ横ばいとなり、30日は利益確定売りに押され、1.7%安となった。1日は一時的に急落し、場中に週間の安値をつけたものの、終値では0.1%高と小幅に上昇して取引を終えた。週末の終値は節目の1200ポイントにわずかに届かなかった。個別銘柄では金融のベトナム投資開発銀行が12.3%高、ベトインバンクが8.9%高、SSI証券が5.9%高と大幅に上昇した一方、不動産のビンホームズが2.8%安、ビンググループが2.7%安、PC・携帯電話販売のモバイル・ワールド・インベストメントが2.2%安となった。今週は一進一退の展開か。

▼指数チャート



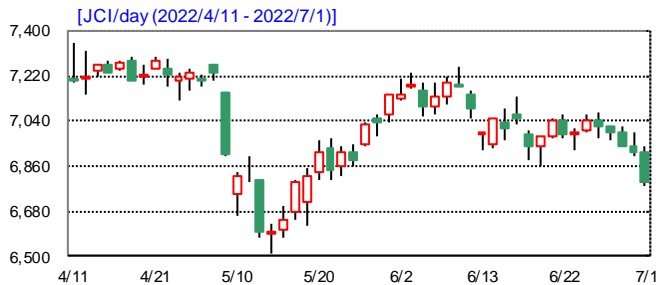


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 3.5%安、6月のCPI上昇率は前年同月比 4.4%**

ジャカルタ総合指数は週間で 3.5%安と反落。6 月月間では 3.3%安。先週はパーム油先物価格の下落などを背景に、週末まで 5 日続落と軟調だった。週初の 27 日は、前週の勢いが続かず 3 営業日ぶりに反落。28-29 日は 7000 ポイントを挟んでもみ合った後、終値でこの水準を割り込むと、30 日はドル高ルピア安の進行が嫌気されて売り優勢の展開となった。1 日は 6 月の CPI 上昇率が前年同月比 4.4%と市場予想から上振れた影響で売られ、指数は前日比 1.7%安と約 1 カ月半ぶりの安値を更新して引けている。今週は国内の重要イベントが少ない中、前週末の NY ダウが反発したことは株式相場の追い風か。

### ▼指数チャート

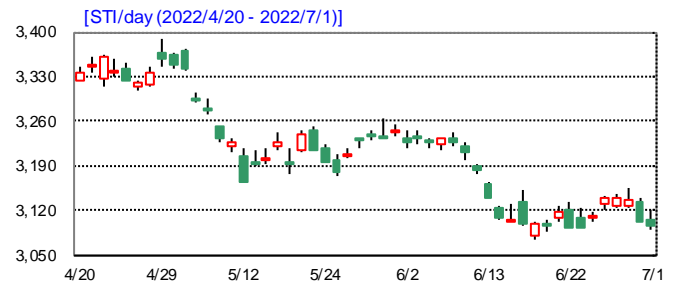


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.5%安、今週は 3100 ポイント台回復に期待**

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.5%安と反落。6 月月間では 4.0%安。先週は週半ば以降の下落が響いた。週初の 27 日は、前週末の NY ダウが大幅上昇した流れを引き継ぎ続伸。28 日も小幅に上値を広げたが、29 日は 6 月の米消費者信頼感指数が低下した影響で 3 営業日ぶりに反落すると、30 日は世界的なインフレ懸念が売り材料視され、前日比 1.0%安と続落した。1 日は景気減速への警戒感から売られ、終値で 6 日ぶりに 3100 ポイントを割り込んでいる。今週は 4 日の 6 月の製造業 PMI に続き、5 日には 5 月の小売売上高が発表される予定。外部要因では、6 月開催分の米 FOMC 議事要旨が指数を左右しそうだ。

### ▼指数チャート

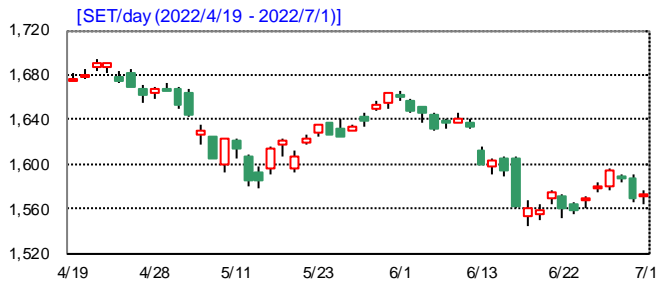


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.2%高、今週は 5 日に 6 月の CPI 発表**

SET 指数は週間で 0.2%高と続伸。6 月月間では 5.7%安。先週は週前半の上昇が指数を支えた。週初の 27 日は、前週末の勢いを引き継ぎ続伸。28 日は中国政府が入国者に対する隔離期間の短縮を決めたほか、ドル高パーツ安が一服したことも買い材料となり上値を広げた。一方、29 日は 5 月の鉱工業生産が前年同月比 2.1%減と市場予想から下振れした影響などで 4 営業日ぶりに反落すると、30 日は米国の 1-3 月期の GDP 確定値が下方修正されたことが嫌気されて、前日比 1.1%安と続落。ただ、1 日は反発して引けている。今週は 5 日に 6 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 7%台になる見通し。

### ▼指数チャート

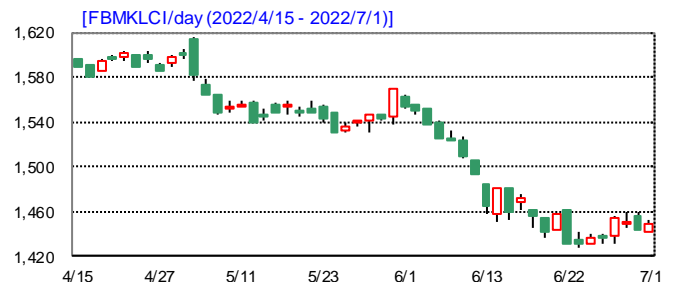


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.9%高と 6 週ぶりに反発。6 月月間では 8.0%安。先週は国内の経済イベントが少ない中、おおむね堅調に推移した。週前半は 27 日の上昇に続き、28 日は安値拾いの買いが奏功し、前日比 1.2%高と 3 営業日続伸。ただ、29 日に反落すると、30 日は引け際に売られて続落した。1 日は通信株が指数上昇をけん引し、3 日ぶりに反発して取引を終えている。今週は 6 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、8 日には 5 月の鉱工業生産と小売売上高が発表される予定。政策金利が 4 年 4 カ月ぶりの利上げとなった前回会合からさらに引き上げられるかが注目される。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。